



北海道大学

平成26年度

国土保全学総論

IGS 5510

特任教授 南哲行

国土保全学研究室

大学院農学研究院 連携研究部門 融合研究分野

我国の国土の成り立ちを踏まえ、国土保全と地域保全の重要性と必要性を学ぶ機会を提供する。

実務経験が豊富な非常勤講師陣とともに、実際の事例を用いて課題から解決策を導く過程を通して実践能力のある人材の育成を図る。

日時	分野	タイトル	講師
4/16	国土保全学概論	国土保全学総論	南哲行（特任教授）
4/23	国土保全関係法令(2)	明治中期における国土保全法制の形成について －砂防法制定の経緯及び意義－	栗島明康（国土交通大学校長）
4/30	国土計画と国土保全政策 (1)(2)	国土計画と多様な主体の参加	奥野信宏（中京大学教授・国土審議会長）
5/7	国土保全と行政実務(1)	国土保全学総論（第5回）	南哲行（特任教授）
5/14	国土保全関係法令(1)	「国土保全」に関連する法律等について	筒井智紀（国土交通省砂防管理室長）
5/21	国土保全と行政実務(2)	国土保全学総論（第7回）	南哲行（特任教授）
6/4	総合的な防災行政実務	国土保全学総論（第8回）	南哲行（特任教授）
6/11	国土保全と行政実務(4)	地すべり地帯の保全と利用	綱木亮介（一財 砂防・地すべり技術センター部長）
6/18	国土保全と行政実務(3)	火山地帯の保全と利用	安養寺信夫（同 理事）
6/25	基礎自治体と国土保全	国土保全と自治体の役割 －美瑛町の防災とまちづくり－	浜田哲（美瑛町長）
7/2	国土保全と行政実務(5)	国土保全対策の事例（洪水、土砂災害）	（現地視察）
7/16	国土保全と防災教育	学校における防災教育の現状と課題	北俊夫（国土館大学教授）
7/23	国土保全学概論	全体の総括	南哲行（特任教授）

敬称略

【講義の主なポイント】

講義の目的、概要

今なぜ「国土保全」を論じるのか

国土を取り巻く自然環境

「国土保全」のこれからの課題

【講義の主なポイント】

我国の山林荒廃の歴史と法整備の社会背景
明治前期の治水対策
河川法、森林法、砂防法制定の経緯
「治水三法」という概念について



【講義の主なポイント】

全国総合開発計画から国土形成計画、次期国土計画への展開
国土・地域政策と人の繋がりへの再構築

【講義の主なポイント】

4/23講義（栗島校長）で出された質問に対する回答





【講義の主なポイント】

防災の観点から見た国土保全
関係法令から見た国土保全
国土保全と国土強靱化

【講義の主なポイント】

5/14講義（筒井室長）で出された質問に対する回答
日本の国土を取り巻く現状、課題
北海道開発局が実施している国土保全対策事例（河川分野）



話題提供：岡下淳氏（北海道開発局 河川企画官）

【講義の主なポイント】

4/30講義（奥野教授）で出された質問に対する回答
大規模災害の危機管理（クライシス・マネジメント）事例

- ① 天然ダムの決壊に備えた土砂災害対策（岩手・宮城内陸地震、紀伊半島）
- ② 火山噴火後の土石流に備えた土砂災害対策（霧島連峰新燃岳）



【講義の主なポイント】

日本の国土と地すべり
国土の開発と地すべり対策
これからの国土保全と地すべり対策

【講義の主なポイント】

5/21講義（岡下企画官）で出された質問に対する回答
火山活動と人間社会（恵みと災い）
火山とつきあう（防災、減災）
火山に対する国土保全技術





講義資料より



【講義の主なポイント】

美瑛町の概要、防災対策
自立と持続のまちづくり
まちのブランド化、「日本で最も美しい村」連合
地域資源としての農林業

【千歳川の洪水対策 ①②（石狩川直轄河川改修事業）】
 【樽前山の土砂災害対策③④（樽前山直轄火山砂防事業）】

平成26年度大学院共通授業「国土保全学総論」



①北広島市千歳川河川防災ステーション
 （災害時の前線基地）



②舞鶴遊水地（洪水時の水位上昇抑制）



④地層観察（噴火履歴の確認）



おほっふ
 ③覚生川1号砂防堰堤（火山泥流対策）



【講義の主なポイント】

学校教育における防災教育、現状と課題
学習指導要領・解説にみる自然災害の記述
防災教育の取り組み事例
防災関係者の学校教育への関わり方

【討論の主なポイント】

7/16講義（北教授）で出された質問に対する回答
講義開始前と現在の国土保全に関する認識の変化 等



非常勤講師の皆様をはじめ、多くの方々のご協力をいただくことで
半年間の講義を終えることができました。

この場をお借りしてお礼申し上げます。

国土保全学研究室 南